

**令和3年健康くまもと21 推進会議 食の安全安心・食育部会
議事録**

- 開催日時 令和3年8月30日(月)13:30~15:30
開催方法 チームスによるオンライン開催
出席委員 13名(五十音順・敬称略)
岡崎淳司、澤村裕美子、谷口千代子、中村好郎、長濱一弘、平川恵子、藤高ちよ、
船田裕介、三浦勲、三浦弘文、丸山隆、宮崎留美子、守田真里子
※3名欠席(高岡辰夫、中村智美、牧尾幸美)
- 次第
- 1 開会
 - 2 挨拶 伊津野保健衛生部長、長濱部会長
 - 3 議事
 - 議題1 第3次熊本市食の安全安心・食育推進計画「食の安全安心の確保」の進捗状況について
 - 議題2 検証指標の変更について
 - 議題3 第3次熊本市食の安全安心・食育推進計画「食育の推進」の進捗状況について
 - 報告 新型コロナウイルス感染症に関連した取組について
 - 4 閉会

議事(要旨)

【議事進行】部会長 長濱委員

《長濱部会長》

議題1 第3次熊本市食の安全安心・食育推進計画「食の安全安心の確保」の進捗状況について、議題2 検証指標の変更について。2題続けて説明をいただいた後に、ご審議いただきたい。それでは、事務局より説明をお願いしたい。

《事務局》

○議題1 資料説明

○議題2 資料説明

《長濱部会長》

ただ今、事務局から食の安全安心・食育推進計画 食の安全安心の確保について進捗状況および検証指標の変更について説明があった。委員の皆様からご意見ご質問があれば手を挙げて発言していただきたい。コロナの問題で保健所はすごく忙しくなられていると思う。その間、収去などいろいろな業務ができなくても何事もなくできていたということは、日頃の用意がしっかりできているから、良かったということではないか。よく言われることだが、何かがあってから動くのでは間に合わず、日頃から何もない時にどれだけ心がけている

かということが、いざという時に対して一番成果を出せる、ということでその成果がでていいるのではないかと感じる。

今回の話では、HACCP という言葉の問題と、アフターコロナと言っていいかまだ分からないが、新しい情報伝達の仕方、今までは会に集まって皆さんにご意見をいただくところだが、今回のようにカメラ越しにお話をするということになっている。

まず HACCP について、事業所等の方ではかなり大変だという考えもあるかと思う。委員の皆様から意見はないか。私の方からの指名式でよければ、手を挙げてもらいたい。

《各委員 了承》

《長濱部会長》

ありがとうございます。まず、一番関係があると思われる卸売市場の丸山委員、ご意見やご提案はないか。

《熊本地方卸売市場 丸山委員》

HACCP とは直接関係してないが、感想として 1 点述べたい。

検証指標について、多くを 5 年に 1 度の市民アンケートを基本にしているという話であった。どうしても令和元年、2 年のところに数値が出てこず、検証ができないというふうになっている。これは、次期（第 4 次）の計画策定の際は、なかなか難しいとは思いますが、毎年度定量的に測れるような検証指標の設定を考えてはどうか。

《食品保健課》

食の安全安心の分野に関しては、第 2 次計画までは、検証指標は、アンケートによる項目がほとんどで、9 項目であった。第 3 次計画の策定の際に、検証指標の項目を増やすこととし、アンケートによる項目に加えて、施策の取組に関する検証指標として、収去の検査率や監視指導の実施率、熊本市版 HACCP の数等を入れ込んだ。ただ、確かに計画の進捗状況を検証していく上では、毎年度とれるような検証指標が望ましい面もあるので、アンケートによる項目に関しては、どうするかなどを委員のご意見も参考に次期計画策定の際には検討していきたい。

《丸山委員》

検証指標のとり方はなかなか難しいとは思いますがよろしくお願ひしたい。

《長濱部会長》

HACCP のことで議題 1、8 ページ「(1) HACCP の普及と実践」の検証指標項目について質問したい。食品等事業者の自主衛生管理の推進についてこれからどんどん進めていかなければならないわけで、事業所の数が入ってくるわけだが、問題は、「⑥ HACCP について知っている市民の割合」の目標値が 20%となっている。他のところ、例えば「〇〇について不安を感じる」というようなネガティブなファクターは 40%を目標にしているので、ひっくり返すと 60%くらい知っていてほしいという数値目標があってもいいのではという気がする。HACCP に取り組まなければならない事業者のモチベーションも、市民がみんな知っている、ということになれば、これはやらなければならないと意識する。令和 5 年は 100%くらい…せめて 60%くらいにしてもいい

いのではないか、というのが個人的な意見だがいかがか。

《食品保健課》

第3次の計画を策定する際、基準値の平成30年度の数値が8.8%だった。それを踏まえた上で20%という目標値としたところ。ただ、部会長からもご指摘のあったとおり、事業者のモチベーションの意味からしても、やはり市民が知っているというのは我々も非常に重要だと考えている。去年は実施できなかったが、市民対象の出前講座や衛生教育の際は、依頼を受けた内容とは別に HACCP のことなど衛生管理について、法改正があり義務化になったことで事業者が取り組んでいかなければならない、といった内容を必ず入れて啓発を図っていた。市政だよりも HACCP について掲載した。業者に取り組んでいただく上で、やはり市民が認識しているということは我々も十分必要なことと考えている。目標値は20%だが理想は100%であり、可能な限り高くなるよう、啓発や情報発信には努めていきたい。

《長濱部会長》

委員の方から何かないか。守田委員、どうぞ。

《尚絅大学 守田委員》

指標のことが出ていたので1点お尋ねしたい。議題1、3ページ「(1)生産段階における食品の安全性の確保」の検証指標項目である「①生産履歴記帳実施農家数」というのは、基準値が平成29年度の5,070戸から、目標値が5,000戸で、年々減っている。これは、農家自体が減っているから、それとも、啓発が足りないのか。農家数が減っているのであれば、到底この5,000戸という目標は達成できないのではないか、と思うので、もう少し指標の考え方を変えたほうがよいのではないか。その現状を聞かせてもらいたい。

《農業支援課》

農家の戸数は5年に1回実施される農林業センサスという調査によるものである。2015年は農家の戸数が約6,600戸、2020年は5,200戸ということで減少している。そのため、現実的には農家数が5,200戸で目標値を5,000戸とするのはハードルが少し高いように考える。

《尚絅大学 守田委員》

農家戸数の母数が減っているのであれば、割合で目標値を設定したりしないと、達成は難しいと思う。これについても第4次計画では考慮してもらいたい。

《長濱部会長》

ただ今の指摘にあったように、表示の仕方が実数の表示がよいのか、割合の方がよいのかというのがある。どうしても両方を求めてしまうので、例えば100%といっても、10人で100%なのか、50万人で100%なのか。例えば6ページに実施率、とあるが目標をパーセンテージだけで出すというよりは、数字で実数を出しておく、見てとれるところがいろいろあるのではないか。

《長濱部会長》

議題 1、4 ページ行政の取組 11、令和元年度の実績の中で「保育所給食に従事する調理師等に対する食品衛生研修会の開催」について、公立が 100%、私立 76.1%、認可外 35.8%となっている。公立の保育園数が 19、私立が 246 と食育の資料から見て取れるが、認可外の施設数は分母が多いということになるのか。

《保育幼稚園課》

認可外保育所の数は約 130 施設であり、そのうちの 35.8%が開催している。

《長濱部会長》

議題 1、14 ページ、検証指標項目「食に関するホームページへの情報掲載数」というのが、48 回という基準値から、令和 2 年度は 61 回に増えている。令和 5 年度は目標値 50 回で減ることになるが、これは、事故件数等が減っていった情報提供数が減るという、プラスの意味合でとらえてよろしいか。

《食品保健課》

1 年間の回数なので、毎年毎年 50 回程度は情報発信をしていこうという意味合いで設定している。

《長濱部会長》

広報が出てくるときは事故や問題が起きたときなのかと思った。これが減っていくと何事もなかった、というふうに考えていたが、そうではないということですね。

《食品保健課》

いろんな事故など起きた場合は啓発の意味でホームページや、必要に応じてマスコミ各社に情報提供を行っている。食の安全安心の分野は、食中毒の予防が大きな目的なので、同じ内容を毎年毎年認識してもらわないと継続しない面がある。夏場になったら細菌性の食中毒が増えるのでこういった注意が必要だ、冬にはウイルス性の食中毒が増えるのでこういう注意が必要だ、といった情報は事故の有無に関わらず定期的に啓発している。そういったものを年間 50 回程度行っており、それを維持していこうという意味合いが強い目標値ということである。

《長濱委員長》

今の説明でもホームページを通じて、ということがあったが、委員の皆さんは市政だよりを紙媒体で読んでいるか、それともデジタルで、携帯、パソコン等で読んでいるかお尋ねしたい。

《各委員 挙手にて回答》

《長濱部会長》

紙媒体も人が配達しないといけない、ということはあるが、熊本市のホームページをぜひ一度ご覧いただきたい。ホームページ自体とてもきれいに、いいものができている。熊本市の食に関するホームページ「熊本市

知りたい伝えたいくまもとの食」の「安全安心のひろば」や「食育のひろば」を見ていただきたい。今、皆さんに審議していただいている内容がきれいに掲載されている。

自宅に居ながら、いろいろな情報を得るという意味では、この熊本市の食に関するホームページ「安全安心のひろば」や「食育のひろば」を活用できると、アンケートのとり方や新しい生活様式での取り組み方など変えられるのではないか。

委員の方もご活用いただければ。ホームページをご覧ください、こういうところをもっとこう作ったらいいのでは、という意見もいただけると思う。ぜひまた次の会がある際には、利便性などについてご意見をいただき、事務局でより良い情報発信をしてもらいたい。

《熊本市保育園連盟 三浦委員》

これまでの発言やデータを受けて安心したことは、令和 2 年度の食中毒の発生状況が非常に少なかったこと。それはとても良いことである。私共は保育施設なので、子どもたちの命を預かっている。一番我々が気になるのは、食の安全に関することである。

今回、HACCP ということで説明があったが、あくまでも食品等事業者の自主衛生管理というところだが、例年、コロナ以前を考えたときに、保育施設には保健所の突然の立ち入りがあった。先ほどの説明を聞くとコロナの影響で立ち入りができていないようであった。確かに、我々も HACCP の自主衛生管理に取り組んでいるところではあるが、やはり、現場ルールとかそういったものができがちだと思われる。行政の客観的な意見で指摘されるとハッとする部分がある。過去を振り返ると実際にいろいろな気づきを得られるのが、保健所の立ち入り、突然の立ち入りの事業であった。HACCP の進捗状況確認のためにも、コロナが落ち着いた後にはこの事業を実施してもらいたいと現場の管理者としては考えているところである。

《食品保健課》

委員からご指摘があったとおり、現場に抜き打ちで立ち入っての監視指導は非常に重要であると考えている。コロナが収束した後は、従来型の立ち入りの監視指導は行ってまいりたい。

《長濱 部会長》

議題 3 第 3 次熊本市食の安全安心・食育推進計画「食育の推進」の進捗状況について
報告 新型コロナウイルス感染症に関連した取組について
続けて、事務局より説明をお願いします。

《事務局》

○議題 3 資料説明

○報告 資料説明

《長濱 部会長》

事務局より「第 3 次熊本市食の安全安心・食育推進計画」および、「新型コロナウイルス感染症に関連した取組について」説明があった。委員の皆様から、ご意見、ご質問はないか。

《熊本県栄養士会 澤村委員》

議題3、2 ページ行政の取組の5。令和2年度は、コロナの為に毎週定例の育児相談が中止になったと記載がある。毎週実施されていた育児相談は、子育てをする母親の不安解消に役立っていると思う。特に1歳未満の保護者の来所が多いと聴いている。体重を測り、離乳食の進め方や幼児の好き嫌いについて対面で答え、保護者のニーズも高いようです。特に離乳食については保護者の不安も強く、さまざまな情報がSNS上にあふれ、正確な情報を得ることが難しい状態であると思う。そこで育児相談日は中止にして電話等の相談と記載があるが、新しい生活様式で、今回の会議のようなオンライン相談の実施予定はないかお尋ねしたい。私達栄養士会でも市民からの栄養相談を電話で受けるケースは多々ある。このコロナ禍において新しい生活様式に即した食育の推進が必要かと思う。

《子ども政策課》

ご指摘のとおり育児相談を中止しているが、要望が多いのも事実として受け止めている。現状としては、集合での相談が難しいので、個別で対応しているところである。ホームページや、動画では不足する部分もあるため、今後は是非オンライン等の指導も検討していきたい。しかし、正直、現場はマンパワー不足もありかなり難しいかなという受け止めもある。なるべく新しい形で今後相談体制が整っていくように努力していきたい。

《長濱 部会長》

議題3、2 ページ行政の取組の1。「結婚子育て応援サイト」のアクセス数が、工夫をしたら3倍上がったということだったが、具体的にどのような工夫をしたら3倍アクセス数が上がったか。

《子ども政策課》

「結婚子育て応援サイト」には、結婚から子育てまで幅広い情報を載せている。情報がかかなり多くなっていることで、それを必要とされる方が徐々に多くなっていると認識している。特に、保育所の入所関係、病児病後児保育施設の空き状況がよく活用されている。市民のニーズにあった情報をオンタイムで載せていることがアクセス数の増加に繋がったのではないか。

《長濱 部会長》

ニーズに沿った、情報提供が必要というわけですね。

《熊本地方卸売市場 丸山委員》

報告「新型コロナウイルス感染症に関連した取組について」は、議題3「食育の推進」とは別に新たに取り組んだものという解釈でよいか。

《健康づくり推進課》

別なものもあるが、重複しているものもある。

《熊本地方卸売市場 丸山委員》

新型コロナウイルス感染症の関係で、家庭内需要、巣ごもり需要が増えていて、スーパーマーケットの売り上げがかなり増え、魚の家庭内での購入額も若干増えているというニュースもある。家庭内における食育の推進は、このコロナの時代、非常に重要になってくるのではないかと。報告書にも、家庭における食育の推進ということで、色々されていて、大変感謝申し上げます。我々流通業界としては、家庭内での消費、特に魚、魚離れも言われているので、家庭内で魚を食べる取り組みが重要かと思うので、より一層家庭での食育の推進に重点を置いた取り組みをしていただければと考えているのでよろしくお願いいたします。

《長濱 部会長》

報告3ページ。生涯にわたる食育の推進で、特色のある取組で、「はじめてお家でクッキング」という動画を作成してある。これがなかなか良くできている。可愛い。ここに「魚のさばき方」があれば、家庭内での魚の消費が、共食も込みにして、上がるのではないかと個人的に思う。

《健康づくり推進課》

「はじめてお家でクッキング」は、若い世代を対象とした大学生講座が中止になったので、それを補完する動画ということで、若い栄養士と大学生が出演し、料理の基本を解説している動画である。ご提案のあった「魚のさばき方」もぜひ動画にしたい。

《長濱 部会長》

漁業関係で丸山委員に出演いただいて、魚をさばいていただいたり、JAの方は野菜についてのお話をいただいたり、色々な所について委員の先生からご意見いただき、事務局で集約していただければありがたい。対面でするのが難しいが、インターネットを使えば、いつでもどこでも見られる、そういうメリットをどんどん活かしていただければと思う。

熊本市ホームページにある「おうちで元気アップくまもと」では、自宅でできる健康づくりの取組を紹介している。ずっと家にこもっているときに、ストレスの度合いをはかれるようになってきている面白い工夫もたくさんあるので、どんどんインターネットの情報を活用していただければと思う。

《食生活改善推進員 平川委員》

家庭での料理ということで、食生活改善推進員協議会では日本食生活協会や市からの委託事業を受け、調理実習等は参加人数を減らして活動しているところである。コロナ禍の新たな取組として、レシピを掲載したチラシを作成しているので活用していただき、家庭での料理に使っていただけたらと思う。すこやか食生活改善講習会の委託事業は、校区数や参加人数を減らして活動しているので、あまり多くの市民に情報を届けられていない状況である。チラシは、市の事務局にもあるので是非活用していただきたい。

《長濱 部会長》

チラシには料理が掲載されており、食事のバランス、簡単レシピなど、いろんなものがネットにもあるので、どんどん啓発していけたらと思う。引き続きご協力をよろしくお願いいたします。

《長濱 部会長》

各委員に質問。最近、テイクアウトではなく「宅配」（飲食宅配代行）を頼まれた方はいるか？〇〇イーツとか。

《各委員 挙手にて回答》

《長濱 部会長》

報告の1頁。1-I-(2)に、「新たにテイクアウトを始めた市中心部の飲食店等への衛生管理の徹底を啓発・指導」とあるが、テイクアウトではなく、お店が作ったものを、配達の人が行って、届ける業態が出てきているが、ご利用になられているか。

作っている人がテイクアウトにするなら、作っている人が責任を負うが、「運搬するだけ」の新しい業態が出てきているので、そのような業態へも、指導に入っていけるのかもしれないと思う。

《尚綱大学 守田委員》

YouTubeなどの啓発も、行政は頑張っておられ、これからますます活用が広がればいいと思う。澤村委員が離乳食の話をしたが、保育所では家庭で食べたものしか提供しないようになっている。「きゅうりを食べさせて」と保護者をお願いしたところ、「ベビーフードにきゅうりが入っているものがないので食べさせられません」という保護者がおられると聞いた。離乳食がベビーフードだけという家庭もたくさんあるという話でとても驚いた。3か月健診、7か月健診、育児相談で、保護者が離乳食を安心して与えられ、「おかゆも自分で作れますよ!」といった指導を行政で進めていく必要があるのではと思う。もっと、YouTubeを充実させたり、健診中で保護者を安心させるということを、充実させていただきたい。

令和5年度の目標値が、「継続実施」が多いが、継続実施で今の事業が改善されていくのか？数値目標を設定するのは大変かもしれないが、第4次の時には検討していただければと思う。なぜなら、数値目標は現状を改善するものでもあるので、「継続実施」では何も変わらないのではと思う。

《健康づくり推進課》

貴重なご意見ありがとうございます。議題1のご意見とあわせ、次の計画策定の際に、分かりやすい目標値を設定していきたいと思う。忌憚のないご意見をいただければと思う。

《長濱 部会長》

議題3、5ページ13、「わくわく楽しい学校給食作品展」について、これは学校単位で募集があっているのか、各家庭からの募集か。コロナ禍で家にいるのなら、家庭で作ってもらったものを応募することもできるのではと思うが。

《健康教育課》

学校単位で応募を募っているものになる。子どもたちの負担を考えて、令和2年度は実施を見合わせた。

《長濱 部会長》

共食、食育という観点からみれば、家庭で作られたものを応募し、審査していただくこともひとつのあり方かなと思った。

《保育園連盟 三浦委員》

飲食宅配代行(〇〇イーツ)について、行政の考えはいかがか。

《食品保健課》

飲食店が調理した食品を運搬する飲食宅配代行が増えているが、法的な規制の観点からいえば、保健所の許可や届け出は必要ない。まずは作っていただく飲食店に安全な食品を作っていただくことが大前提。しかし、運搬の過程で温度管理が悪ければ、細菌も増え食中毒につながることも考えられるので、今後、飲食宅配代行についても監視や衛生教育も考えていく必要もあるかと思う。

《保育園連盟 三浦委員》

個人的には頼まないが、いろいろなうわさもある。食育という観点であれば、人様に作っていただいたもの、せめて取りに行こうよという気もしないではない。取りに行く位は必要ではと思う。

《尚絅大学 守田委員》

議題3、11 ページ、「健康づくりできます店」について、国では「スマートミール」の認証制度が始まっているが、このようなことに対し、今後取り入れる予定があるのか。行政として考えていることがあれば教えていただきたい。

《健康づくり推進課》

健康づくりできます店に関しては、飲食店、コンビニ、お弁当総菜店が対象として入っている。スマートミールに関しては、国の栄養改善学会が中心となって、弁当店や飲食店と社員食堂など、主に一食分の料理を提供するところを認証する制度で国も進めている。健康づくりできます店に関しては、コロナ禍でもあり、お店の意識としてもなかなか難しい面もある。学会等が示す認証制度と、本市の制度と考えあわせ、より飲食店等が積極的に参加しやすい仕組みづくりが今後行って行ければと思う。熊本県も昨年度をもって、「健康づくり応援店」制度を中止し新たな制度へ変更しており、県の新制度も含めて今後の市の制度を検討したい。

《尚絅大学 守田委員》

「熊本市の野菜たっぷり」などを進めていければ農水部局にとってもいいかと思う。ただ量が多いだけでなく、自分に見合った量を考えて食べるのも大事。食品ロスも含め、健康的なお店の認証が進んでいけばと思う。アフターコロナに合ったことを考えていただきたい。

《長濱 部会長》

熊本県立大学では「熊本食育ガイドブック」を作成しており、ブルーサークルメニュー、熊本の食文化を伝えている。今、飲食店に直ぐには厳しいが、このようなことをご家庭で話していただくことができたらと思う。

野菜の話が出たので JA 宮崎委員から、何かご意見などをとりましたが、マイクが使えないということで

すので、またの機会によろしくお願ひしたい。

《地域包括支援センター 谷口委員》

高齢者部門のほうで、高齢者と低栄養予防のための啓発でいろいろなリーフレットを作成いただいている。高齢者は動画の視聴がなかなかできないが、「はじめてお家でクッキング」の中に、高齢者ができる料理を大学生と一緒に組んで、できると高齢者も楽しいかなと思う。DVDなどで、楽しく高齢者が食べられるようなものを作っていただけると良い。サロンなどもなく、一緒に食べる機会もないので、DVDを見ながら食べると楽しいな、というものがあると良いと思う。

《健康づくり推進課》

高齢者と孫の大学生で作るような動画を考えたい。

《長濱 部会長》

まさに、共食の良い機会にもなる。高齢者だけ、大学生だけを対象としたものより、みんな一緒になっていれば、「若い人はこんなもの食べているのか」というような、話のきっかけになればと思う。

《小学校校長会 藤高委員》

様々な分野の方が、食の安全安心についてしっかり取組をされていることを実感した。学校では給食を教材として食育を進めている。食に関する指導の年間計画を基に発達段階に沿った食育を行っている。各校の課題に沿って少しずつというところである。関係各所の皆様には、いろいろな機会に各学校がお世話になるかと思うので今後もよろしくお願ひしたい。

《PTA 岡崎委員》

食の安心安全確保は、非常に大切なテーマだと思う。離乳食の話もあったが、末っ子が離乳食に取り組もうとしている。本日教えていただいた、ホームページやYouTubeを他の方にも、どうにか共有できないかと思う。PTAの保護者、先生に共有する手段が、LINEや安心安全メールなどある。私達ができることは、広報活動や告知する活動はしやすい環境にあると思う。コロナ禍もあり、対面は難しいが、例えば、報告3「食育の推進」を1つのPDFにまとめ、リンクをはり、PTAの役員や、各保護者に届けることは可能かと思う。配布活動、広報告知でお役に立てればと思う。資料をいただければPTA事務局を通して、データや紙で配布することはできる。新しいやり方、新しいコロナ禍の交流の仕方をみなさんと一緒に考えていけたらと思う。

《長濱 部会長》

そろそろ時間になったので、発言いただけてない方もるが、ぜひ次回、ご発言していただければと思う。第3次食の安全安心・食育推進計画について、有意義な議論ができたので個人的には嬉しく思う。

委員の皆様、SDGsを聞かれたことがありますか？熊本県は、日本で2位。熊本市も未来都市計画を作っている。「上質な生活都市」が熊本市の方向である。「上質」なのは「食」だと思う。「食」は「人を良くする」と漢字で書く。「人と人をつなぐ食育」、「人と地域をつなぐ食育」、もちろん「安心安全なものを食べられる」そ

ういう上質な生活都市をつくる、そのような方向を向いているので、委員の皆様には、今後も協力をいただき、目標に向かって一丸となっていけたらと思う。

本日は議事進行にご協力いただきありがとうございました。

《事務局》

閉会